



総合力世界No.1の鉄鋼メーカーへ

2011年9月22日

新日本製鐵

 **住友金属**

将来予想に関する記述について

本資料には、新日本製鐵株式会社および住友金属工業株式会社の間の経営統合の成否およびその結果にかかる「将来予想に関する記述」に該当する情報が記載されています。本資料における記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた両社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しています。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示される両社または両社のうちいずれか一社（または統合後のグループ）の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。両社は、本資料の日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、今後の日本国内における公表および米国証券取引委員会への届出において両社（または統合後のグループ）の行う開示をご参照ください。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) 日本国内外の経済情勢。
- (2) 鋼材需給、原材料価格、為替相場の変動。
- (3) 借入金、社債等の金利の変動、その他金融市場の変動。
- (4) 有価証券および投資有価証券等の保有資産（年金資産を含む）価値の変動。
- (5) 事業活動にかかる法令その他規制（環境規制を含む）の変更。
- (6) 海外の主要市場における関税引き上げ、輸入規制等。
- (7) 災害、事故等に起因する事業活動の停止、制約等。
- (8) 経営統合が実施できないこと。
- (9) 統合後のグループにおいてシナジーや統合効果の実現に困難が伴うこと。

資料内容

1. 経営統合の概要と効果
2. 統合新会社の成長戦略
3. 統合新会社の財務戦略



Best for the new company

1. 経営統合の概要と効果

統合新会社の概要

商 号	新日鐵住金株式会社 英文名称：Nippon Steel & Sumitomo Metal Corporation
本店所在地	東京都千代田区
合併期日 (統合期日)	2012年10月1日(予定)
統合の形態	新日鉄を存続会社とする合併(事業持株会社)
合併比率	新日鉄：1.0 ， 住友金属：0.735 ※住金の株式1株に対し、新日鉄の株式0.735株を割り当て
上場取引所	東京・大阪・名古屋・福岡・札幌証券取引所

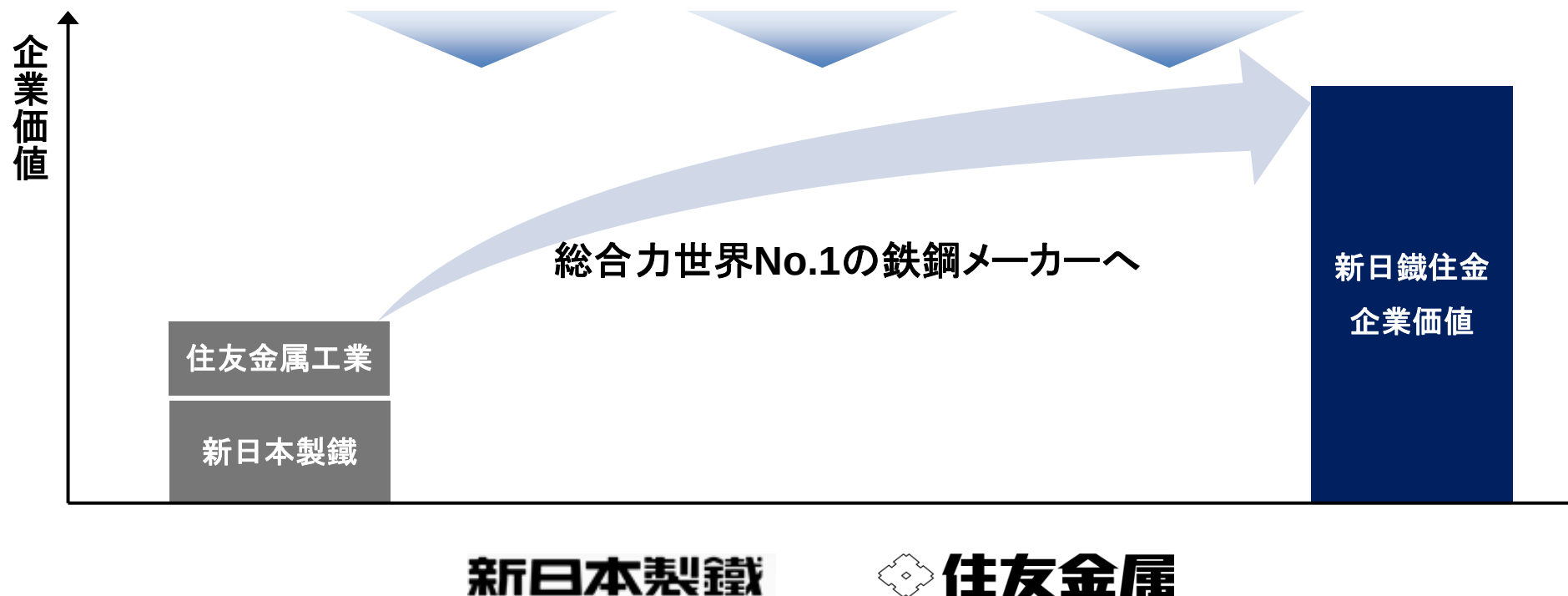
総合力世界No.1の鉄鋼メーカーへ

世界一の技術力で素材としての鉄の可能性を極限まで追求
世界経済の成長と豊かな社会の創造に寄与します



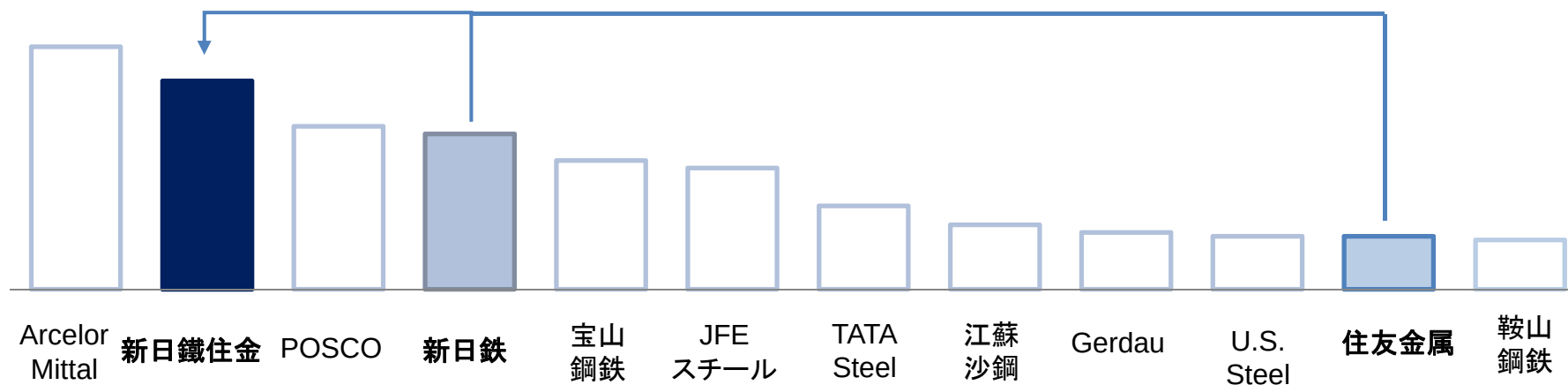
両社の強みを融合した企業価値の拡大

グローバル展開の 推進・加速化	・新興国を中心とする製造・加工・営業拠点の再編と拡充 ・海外での一貫製鉄所を含む製造販売拠点の強化と新設 ・お客様ニーズへの総合提案力・サービス力の向上
世界最高の 技術先進性の発揮	・両社の技術力融合で、鉄の可能性を極限まで引き出し、 お客様ニーズの高度化に対応
グローバル競争を勝ち抜く コスト競争力の構築	・経営統合後3年程度を目途に、年率1,500億円の統合効果実現



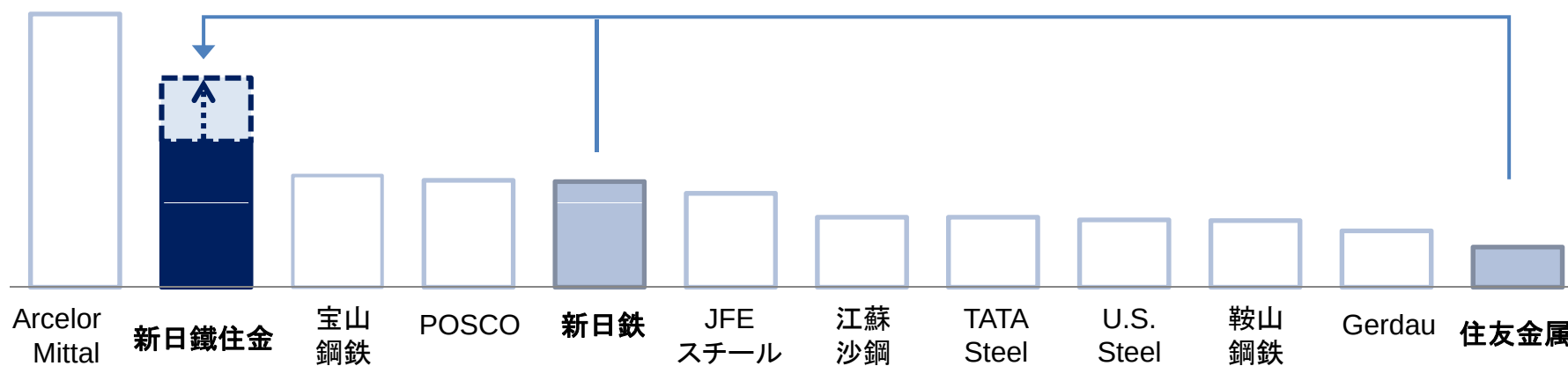
統合新会社のスケール

2010年 売上高



(出所: 各社公表資料)

2010年 粗鋼生産量



(出所: World Steel Association, 当社推定)

新日本製鐵

住友金属

経営統合に向けた今後のスケジュール

2011年9月22日

統合基本契約の締結

2012年4月
(予定)

合併契約の締結

2012年6月
(予定)

各社、定時株主総会にて合併契約のご承認

2012年10月1日
(予定)

合併(統合)の効力発生日

* なお、本経営統合は、関係当局の認可および両社の株主総会の承認等を条件としております。



Best for the new company

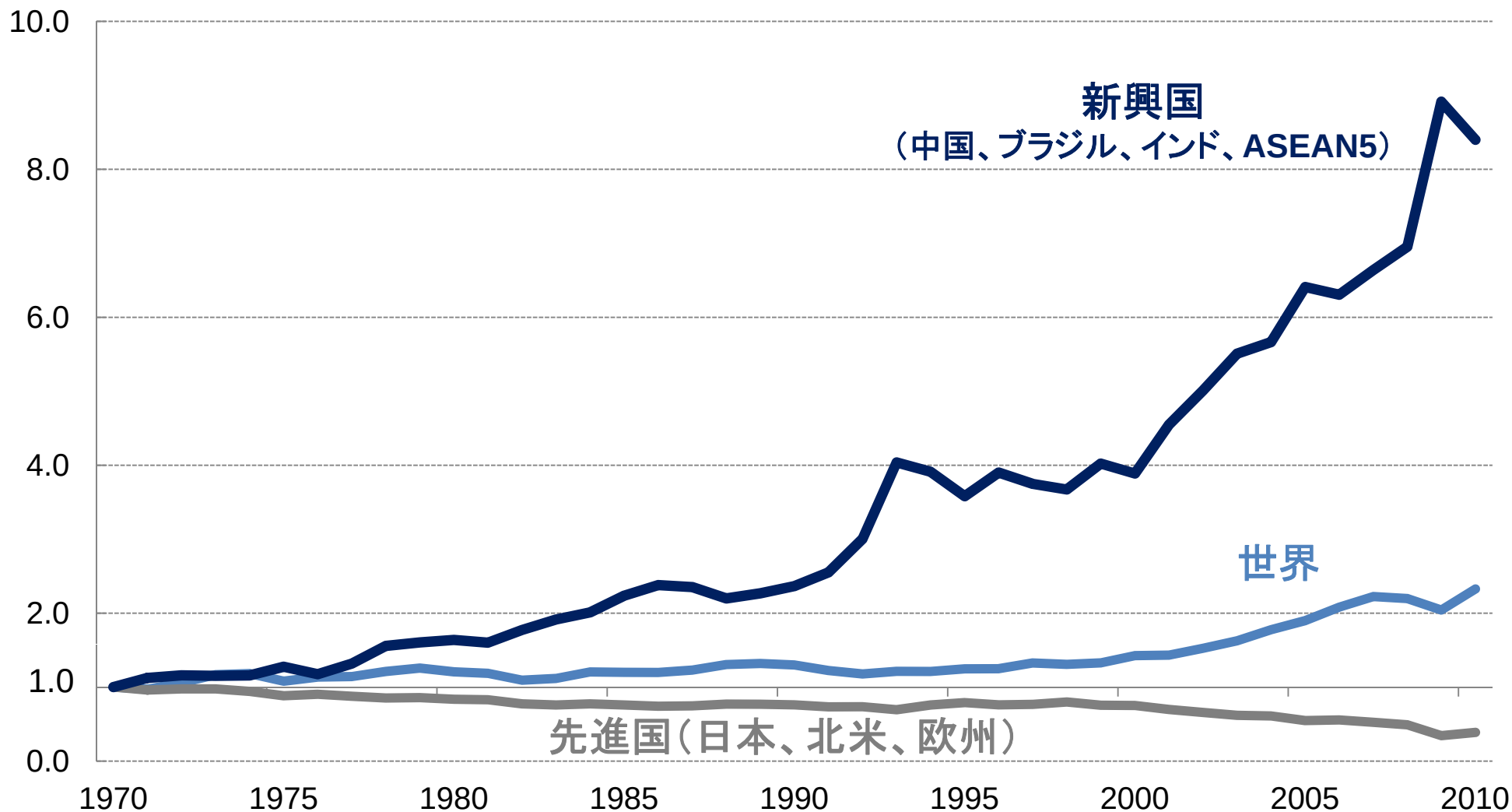
2. 統合新会社の成長戦略

(1) 鉄鋼事業のグローバル展開

伸びゆく新興国需要の捕捉

グローバル展開

粗鋼見掛消費量の推移 (1970年粗鋼見掛消費量 = 1.0)



(出所: World Steel Association)

日本をベースに成長市場で現地生産を展開

- もの造りのベースは今後も日本
- お客様との切磋琢磨で培われた最高品質の鋼材を成長地域で供給

- 日本流もの造りのベース
- 最先端商品の製造/開発拠点
→ 合併シナジーを活かした
 - ・ 先進新商品の開発
 - ・ 競争力向上
 - ・ 設備新鋭化

- 世界経済成長の中心ゾーン
- 製造・加工・営業拠点の再編と拡充

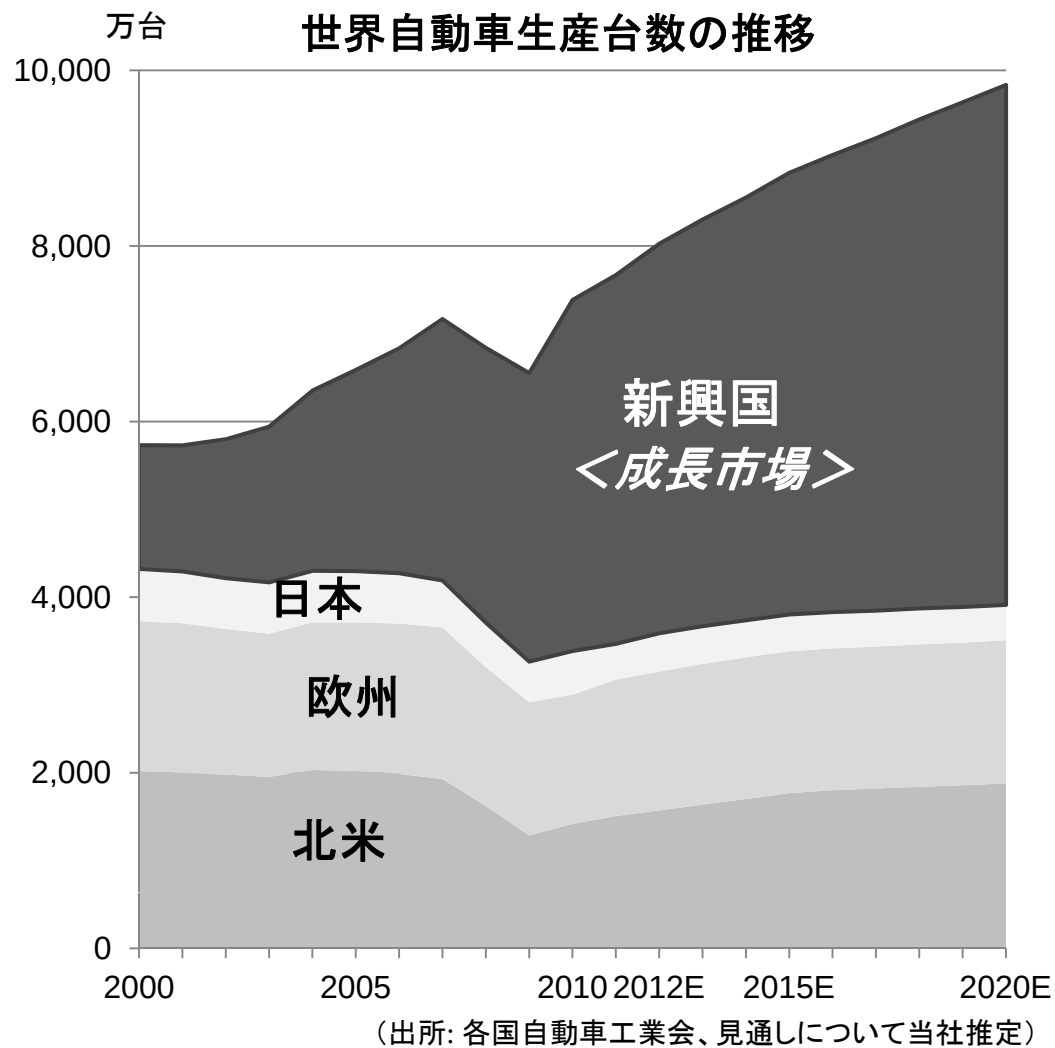
- 米州地域
- ブラジル他の拠点を活用し
需要捕捉

アジア地域・米州地域等での鉄源一貫を含む製造販売拠点の強化と新設

グローバル生産規模 6,000～7,000万トンへ

自動車向け 世界No.1の鋼材商品群

グローバル展開



新日鉄の得意分野

住友金属の得意分野

両社の得意分野

新日本製鐵

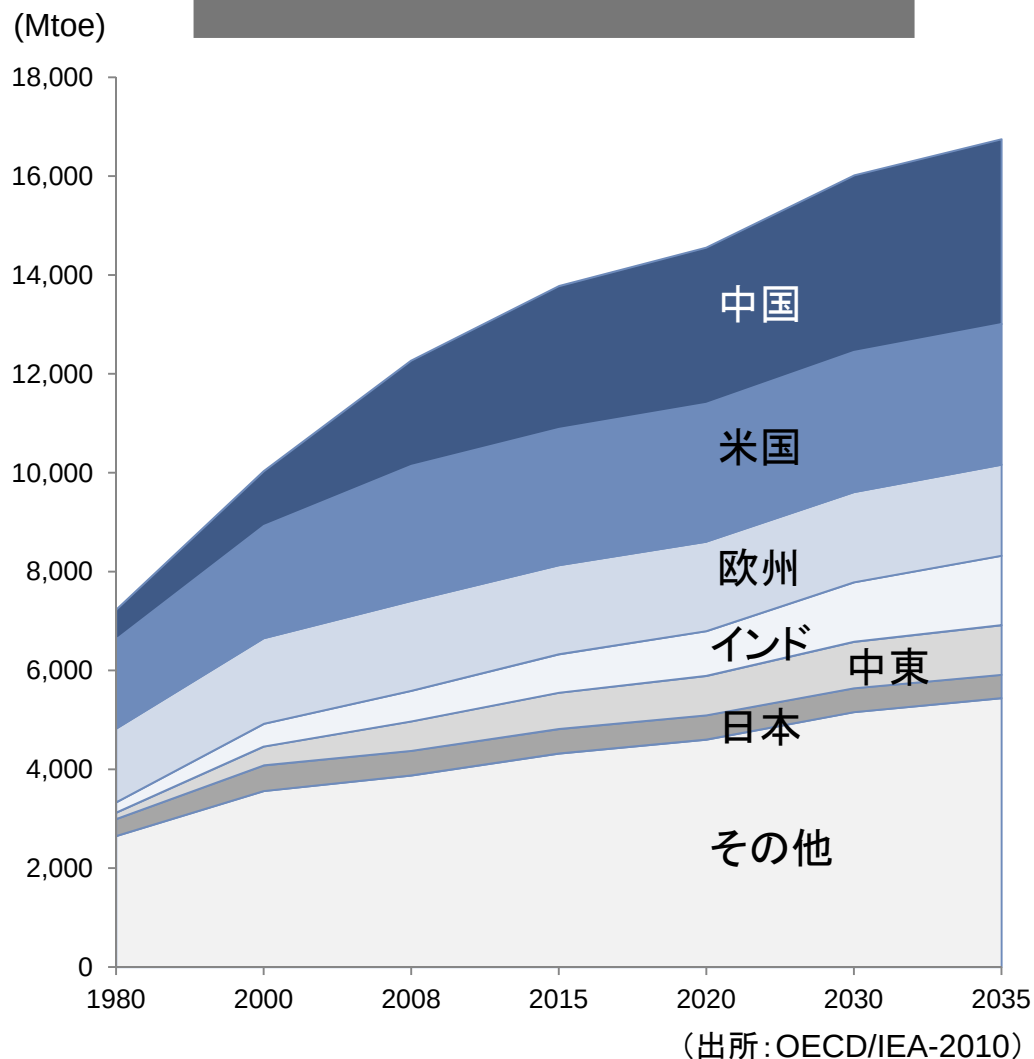
住友金属



世界エネルギー需要の成長

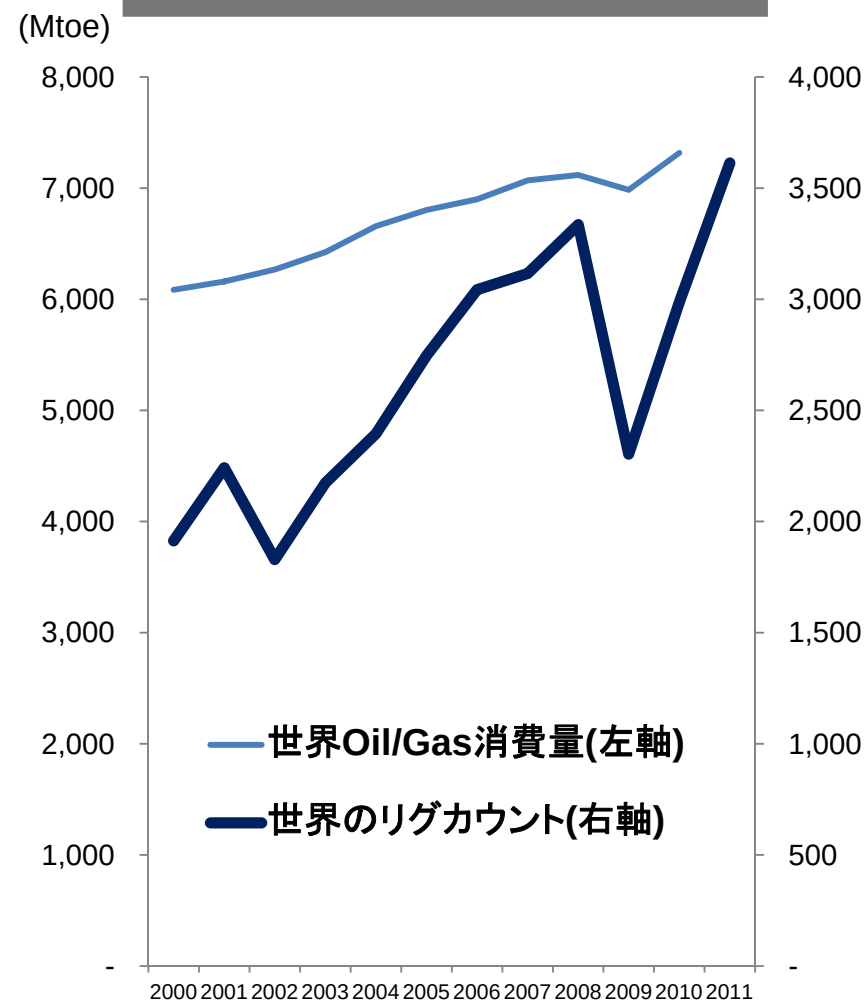
グローバル展開

世界の地域別エネルギー消費量



新日本製鐵

リグカウントとOil/Gas需要



(出所: Baker Hughes, BP等より当社推定)

住友金属

エネルギー向け高級鋼材商品群

グローバル展開

開発・生産



輸送・貯蔵



発電



新日本製鐵

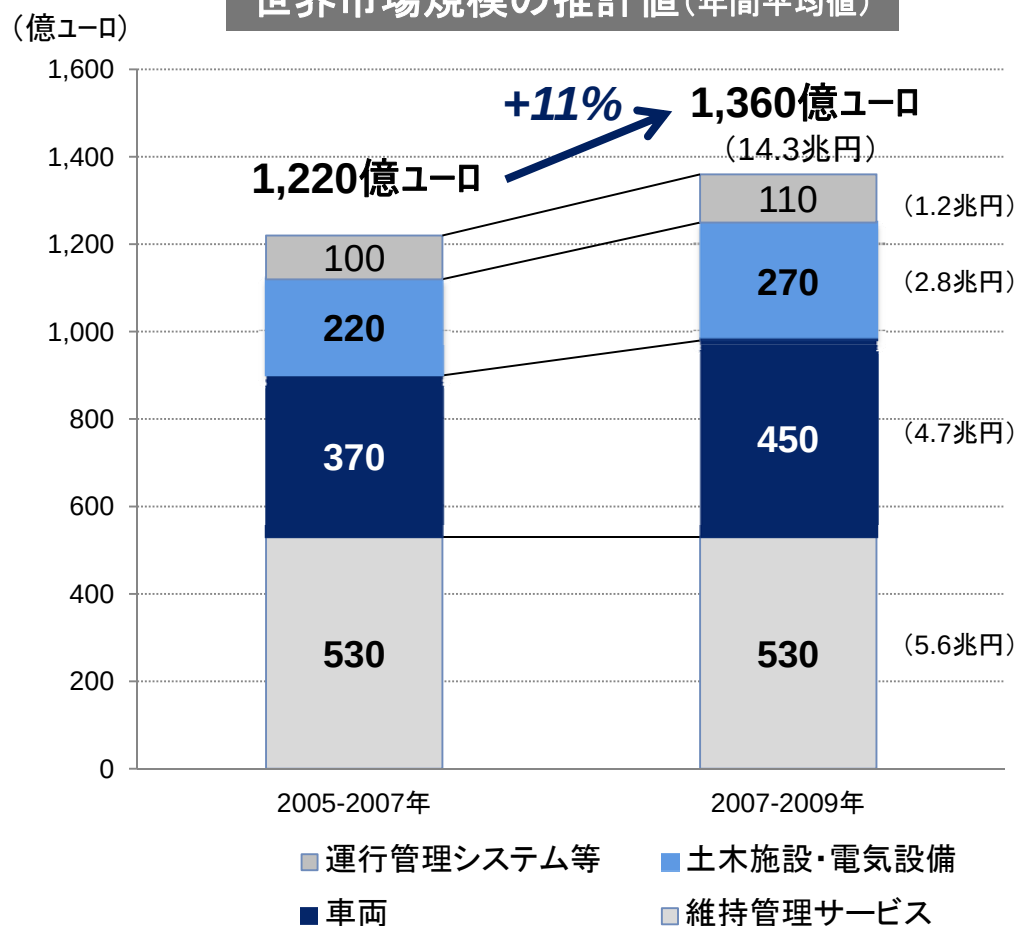
住友金属

鉄道インフラ需要の成長

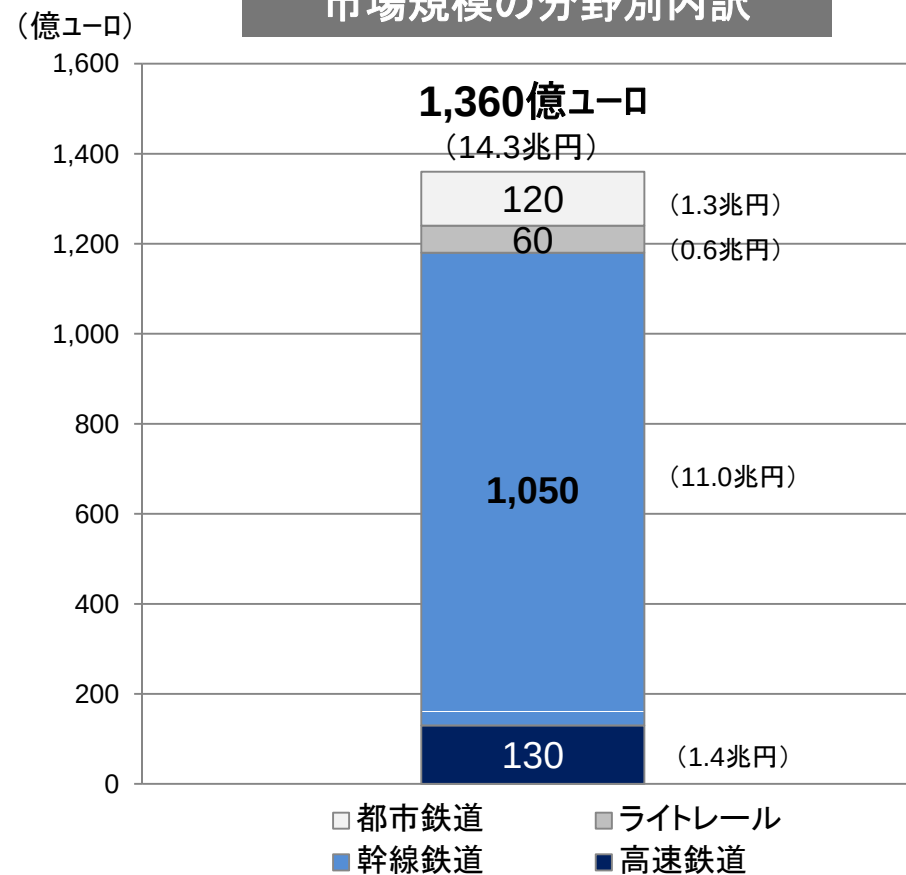
グローバル展開

鉄道市場規模は世界で年間14兆円、年率3%程度の成長

世界市場規模の推計値(年間平均値)



市場規模の分野別内訳



(出所: 国土交通省)

成長する鉄道インフラ需要に最高品質で対応

世界最高水準のレールと、日米両極体制での高性能車輪供給

新日鐵住金

車輪 24万枚/年
(輸出比率5割)
レール 62万ト/年
(輸出比率8割)

Standard Steel

米国唯一の鍛造車輪・車軸メーカー
車輪 30万枚/年



新日本製鐵

住友金属

(2) 世界最高水準の技術力

技術・研究開発の融合で鉄の可能性を拡大

技術

研究組織の一体化による、開発の高度化・効率化・早期化

研究開発費 700億円

お客さまニーズへの提案力強化

お客様との共同研究数 450件

プロセス革新も含む新製造技術開発

今後もデファクトスタンダード技術の開発で競争力を向上

省エネ・省CO₂等、地球環境対応技術におけるリーダーシップの発揮

世界No.1のエネルギー効率・省CO₂製品ラインアップ

劣質化する鉄鋼原料の使用技術開発

低品位鉄鉱石などの利用技術開発

両社の技術を融合した、先進の技術開発・製品開発を追求

技術

お客様のニーズ変化・高度化に応える開発力・競争力

	新日鉄	住友金属
鉄源	コークス炉診断・補修技術（大河内賞）	次世代製鋼プロセスの開発（大河内賞）
自動車 ・造船 ・エネルギー	衝突エネルギー吸収・プレス成型性に優れた自動車用鋼板（大河内賞） 大型コンテナ用高強度鋼板（大河内賞） 原油タンカー用耐食性鋼板（市村賞）	溶接部の疲労強度を高めた高級厚板（市村賞） 超高強度耐サワー低合金油井管（全国発明表彰） 超々臨界発電を可能にしたボイラーチューブ（大河内賞）

鉄鋼会社では世界トップの特許保有件数

	新日鉄	住友金属	統合新会社
国内保有特許件数 （2011年5月時点）	7,957件	3,698件	11,655件
国際特許公開件数 （2006年～2010年）（※）	561件	347件	908件
研究開発費 （2010年度）	466億円	227億円	693億円

（※）参考：競合者国際特許公開件数 JFE 329件、POSCO 234件、ArcelorMittal100件 （出所：特許庁データベースより当社調べ）

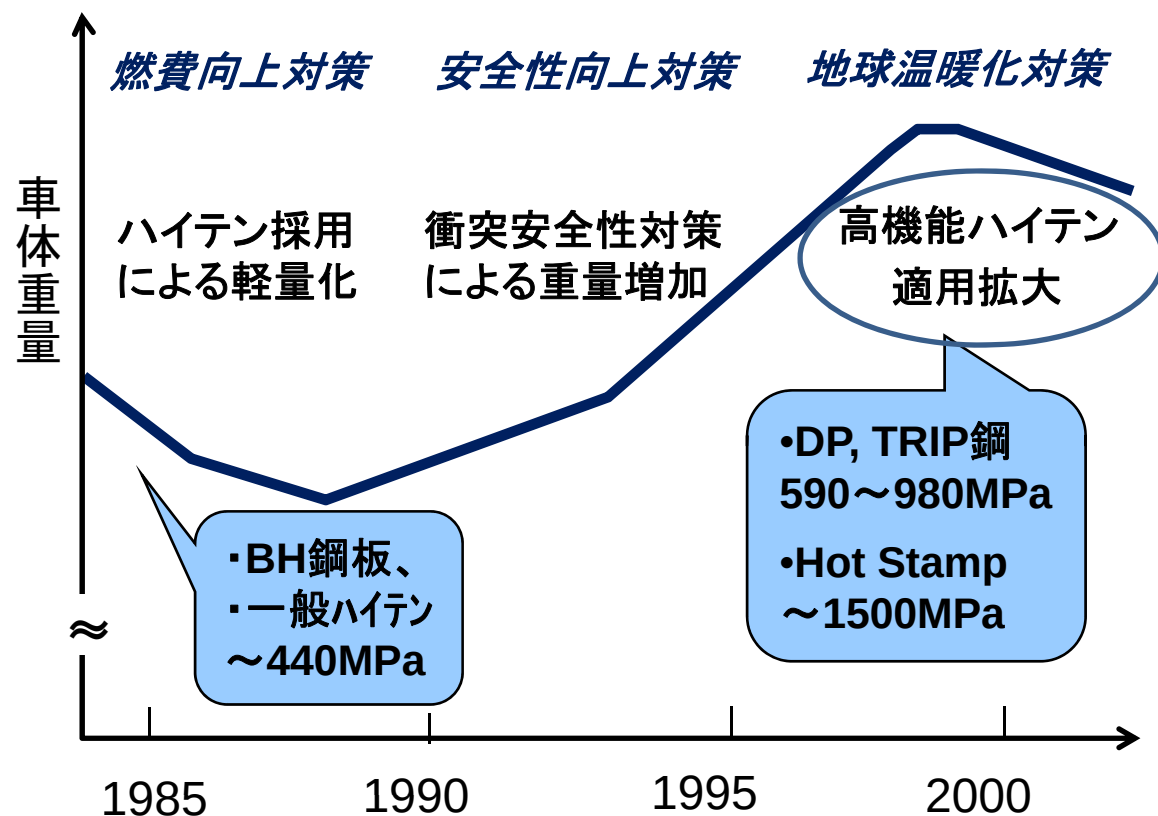
新日本製鐵

 住友金属

お客様ニーズの厳格化をビジネスチャンスへ

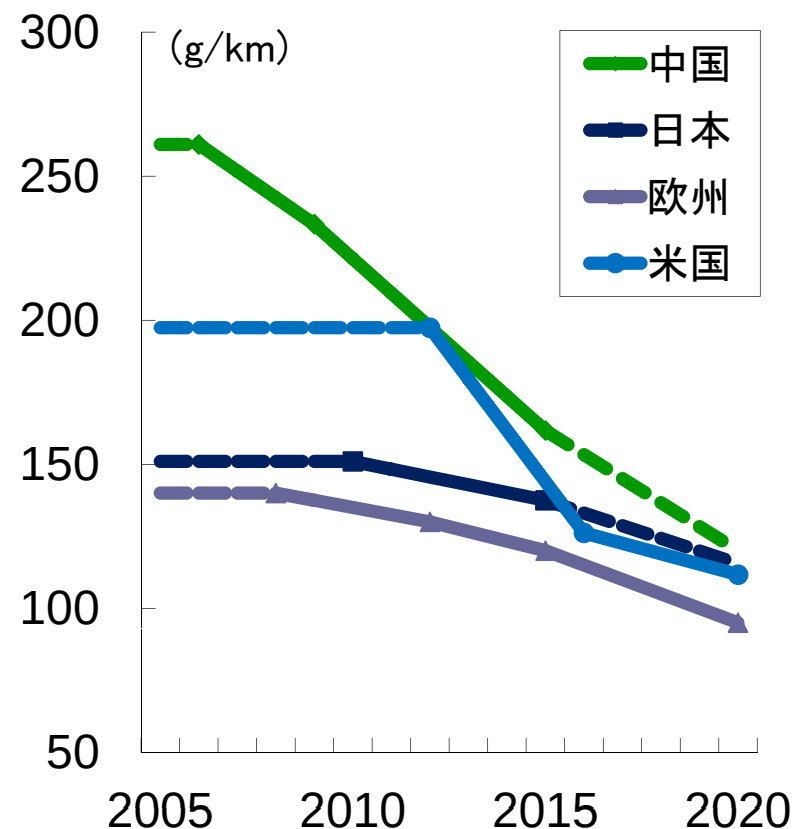
技術

自動車ボディ重量の変化(模式図)



(出所: 日本塑性加工学会)

CO2排出量規制



(出所: 自動車工業会その他資料より当社作成)

衝突安全性と軽量化の両立のため、ナノテク技術を活用した高機能ハイテンの適用が拡大

ますます高まるCO2排出量規制
→ 更なる軽量化技術への期待

(3) グローバル競争力を勝ち抜く コスト競争力の構築

統合効果の早期実現

コスト

統合後3年程度を目途に年率1,500億円の統合効果を実現

項 目	年間効果額
【グローバル展開の拡充関連】 ①両社人材を活用した海外事業展開の加速 ②海外生産・営業拠点の再編・強化 ③上記に対応した管理間接部門等の効率化 等	300億円程度
【技術・研究開発関連】 ①技術・研究開発分野の融合による技術先進性発揮 （操業・製造技術のベストプラクティス共有化含む） ② R&Dスピードアップ・効率化 等	400億円程度
【生産・販売関連】 ①製造工程一貫での生産効率化（製鉄所間連携効果を含む） ②製造ライン毎の最適分担による生産性向上 等	400億円程度
【調達関連】 ①原料調達・輸送の効率向上 ②設備仕様共通化等による設備費・修繕費・資材費削減 ③資金調達の一元化・資金管理の効率化 等	400億円程度
合 計	1,500億円程度

今後、更に施策・効果の上積みに努力します。

定常コスト削減についても、従来以上に取組みを強化してまいります。

新日本製鐵

住友金属

製鉄所間の連携強化とベストプラクティス共有化

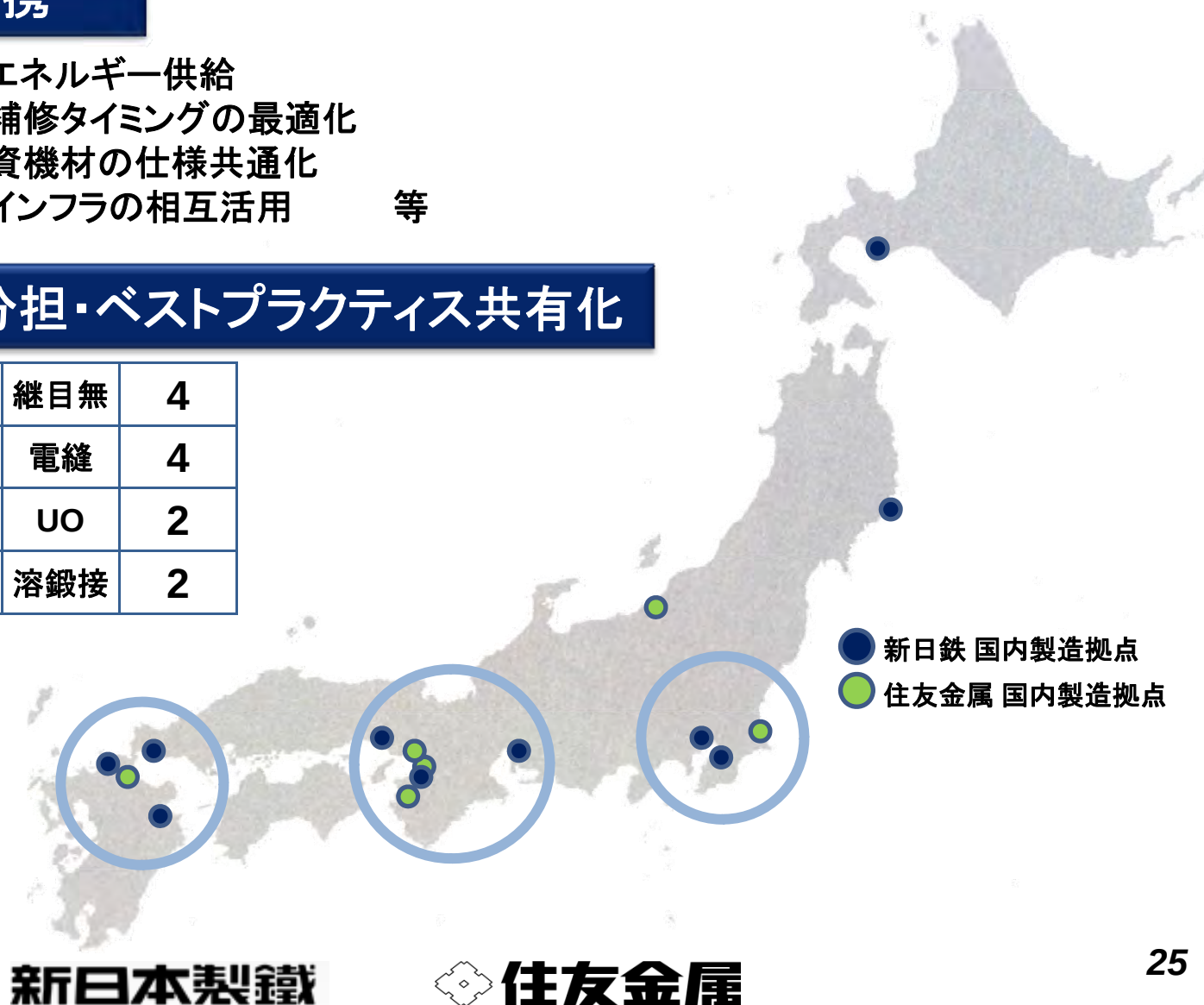
コスト

近隣製鉄所間の連携

- 粗鋼の融通
 - 原料輸送の効率化
 - 原料在庫の効率化
 - エネルギー供給
 - 補修タイミングの最適化
 - 資機材の仕様共通化
 - インフラの相互活用
- 等

製造ライン毎の最適分担・ベストプラクティス共有化

熱延	6	厚板	4	継目無	4
冷延	13	大形	3	電縫	4
CGL	18	棒鋼	2	UO	2
EGL	8	線材	4	溶鍛接	2



高い生産効率・エネルギー効率を実現

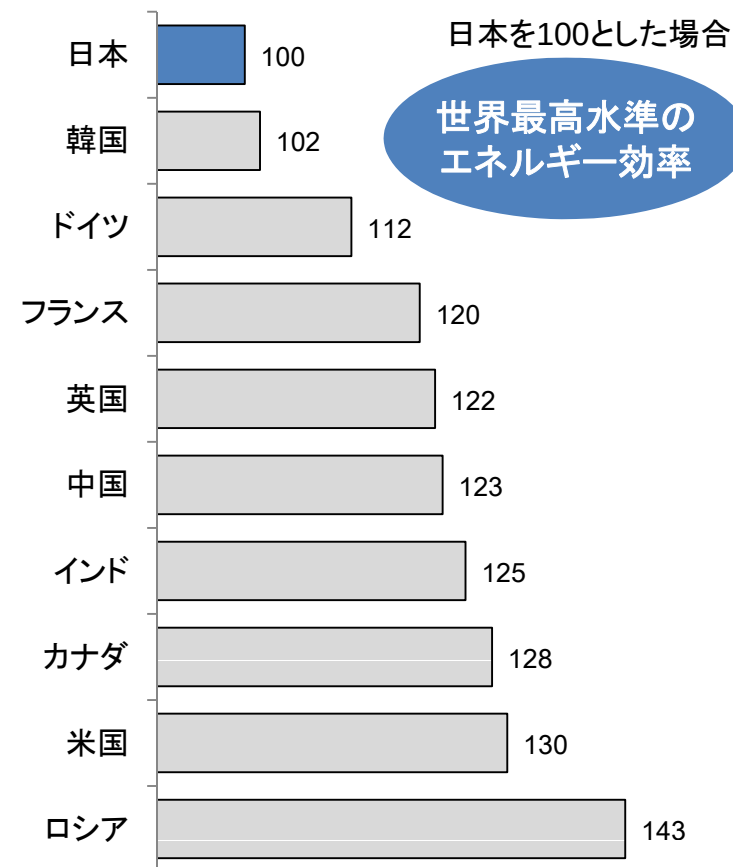
コスト

世界の大型先進高炉の4割を統合新会社が保有

高炉容積ランキング			
1	江蘇沙鋼	No.4BF	5,800m ³
2	新日鐵住金	大分 1BF	5,775m ³
		大分 2BF	5,775m ³
4	POSCO	浦項4BF	5,600m ³
5	Severstal	No.5BF	5,580m ³
6	新日鐵住金	君津 4BF	5,555m ³
7	ThyssenKrupp	Schwelgern2BF	5,513m ³
8	首都鋼鉄	曹妃甸 I	5,500m ³
		曹妃甸 II	5,500m ³
	JFEスチール	福山 5BF	5,500m ³
11	新日鐵住金	名古屋 1BF	5,443m ³
12	神戸製鋼所	加古川 2BF	5,400m ³
13	新日鐵住金	鹿島・1BF	5,370m ³
		鹿島・3BF	5,370m ³
15	現代製鉄	唐津1,2BF	5,250m ³

(出所: 当社調べ)

鉄鋼業のエネルギー効率国際比較



(出所: RITE)

新日本製鐵

住友金属

権益取得で原料リスクをヘッジ

コスト

優良な原料権益の取得・ソースの多様化により
安定調達と価格変動リスクヘッジを実現

投資先からの調達比率

鉄鉱石

約3割

石炭

約2割

68百万トン

年間調達規模
(2010年度実績合計)

32百万トン

カナダ

Elkview

2.5%

* USIMINAS

MUSA

70%*

NIBRASCO

31.4%

MBR

2.4%

CBMM

2.5%

Hail Creek

8.0%

Moranbah North

5.0%

Warkworth

9.5%

Integra

6.0%

Bulga

12.5%

Foxleigh

10.0%

Revuboe

23.3%

ブラジル

モザンビーク

オーストラリア

長期契約・出資鉱山

▲ 鉄鉱石

● 原料炭

◆ その他合金

□ % 統合新会社出資比率

Robe River

14.0%

Beasley River

37.6%

(予定)

新日本製鐵

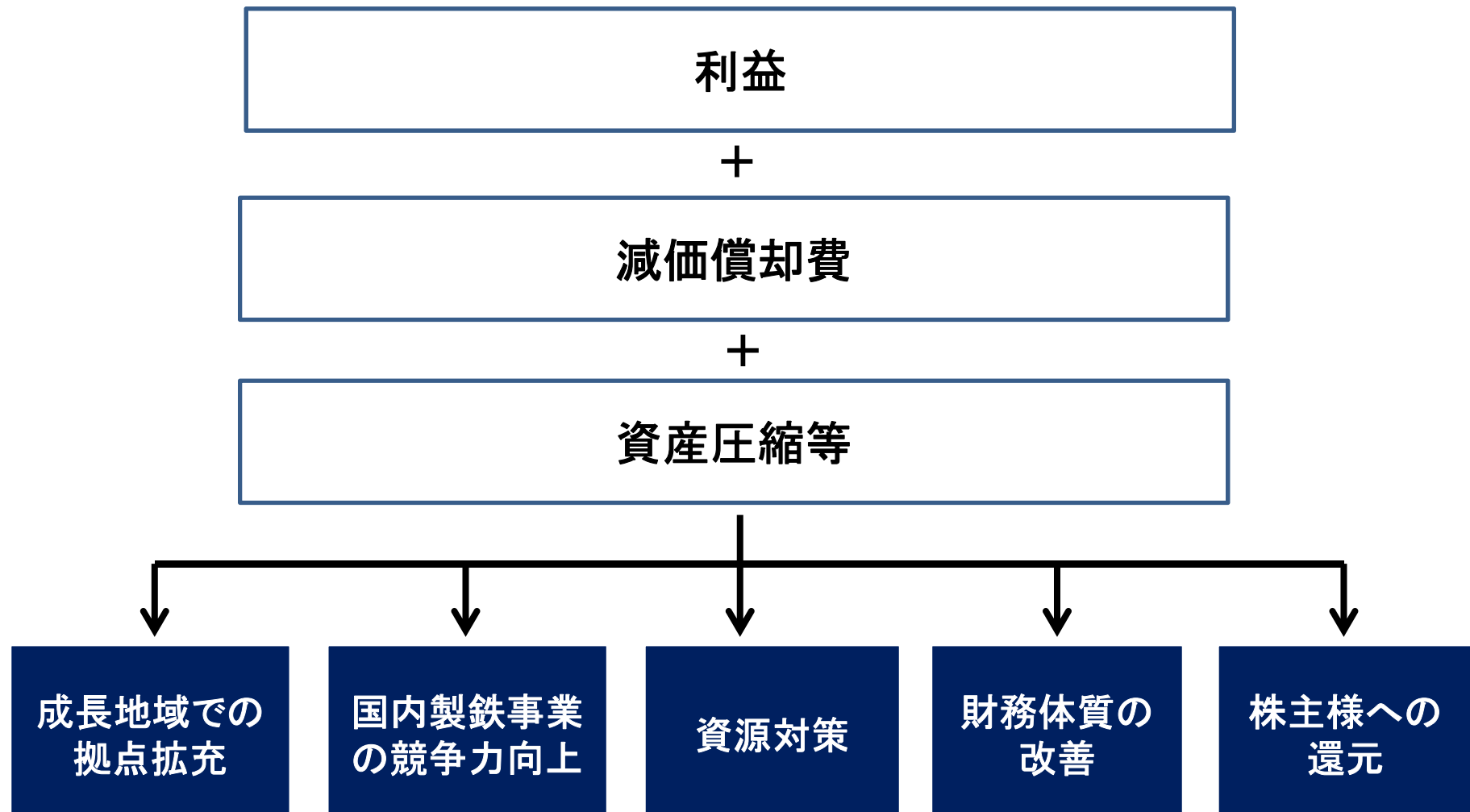
住友金属



Best for the new company

3. 統合新会社の財務戦略

統合新会社の資金使途



総合力世界No.1の鉄鋼メーカーへ

世界一の技術力で素材としての鉄の可能性を極限まで追求
世界経済の成長と豊かな社会の創造に寄与します





Best for the new company
